



協議会開催の目的及び議論のポイント

- 大山隠岐国立公園満喫プロジェクトのこれまでの取組について振り返るとともに、今後 5 年間の方針となる新たなステップアッププログラムの方向性について議論する。
- 併せて、今後の取組の実施体制について、協議会のあり方や新規事業を含めて検討する。

【議事 1】

協議会開催の目的及び議論のポイント

議論のポイントについて全体像を把握
全体の方向性について確認

【議事 2】

「大山隠岐国立公園ステップアッププログラム2025」に基づく取組報告

- (1) 各主体の取組
- (2) 取組状況の振り返り

主要な取組について共有
取組状況の振り返り・評価

【議事 3】

「大山隠岐国立公園ステップアッププログラム2030」及び実施体制について

- (1) 大山隠岐国立公園ステップアッププログラム2030の素案
- (2) 大山隠岐国立公園における協働型管理の推進

今後 5 年間の取組方針や目標を議論
協議会のあり方・新規事業等を検討

～国立公園の保護と利用の好循環により、優れた自然を守り地域活性化を図る～

背景 観光を基幹産業に成長させ「観光先進国」を目指す「明日の日本を支える観光ビジョン（2016年3月）※」の柱の一つに**国立公園の「ナショナルパーク」としてのブランド化**を図る国立公園満喫プロジェクトが位置づけられ、**大山隠岐国立公園を含む先行8公園で取組を開始。**

内容

- ・日本の国立公園の**ブランド力を高め、国内外の誘客を促進**。利用者数だけでなく、滞在時間を延ばし、**自然を満喫できる上質なツーリズム**を実現。
- ・地域の様々な主体が**協働し、地域の経済社会を活性化させ、自然環境の保全へ再投資される好循環**を創出。

現状 2021年から**全ての国立公園に取組を展開**。コロナ禍を経て国内外の利用者が復活。**滞在型・高付加価値観光も推進。**

※明日の日本を支える観光ビジョン構想会議（議長：内閣総理大臣）策定

地域の体制づくり

- ・ステップアッププログラムの策定／満喫プロジェクト地域協議会の運営
- ・利用の取組の法制度への位置付け
- ・利用者負担による保全の仕組みづくり
- ・インタープリテーション全体計画

受入環境の磨き上げ

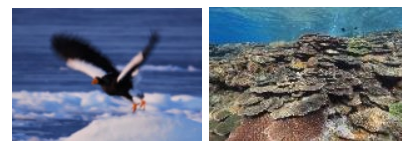
- ・景観改善／廃屋撤去／街並み景観改善
- ・多言語解説／Wi-Fi設置／案内機能強化
- ・情報発信施設の再整備／カフェ等導入
- ・滞在体験の魅力向上先端モデル事業

自然体験アクティビティの充実

- ・自然体験コンテンツガイドライン運用
- ・アドベンチャートラベルの推進
- ・人材育成

国内外のマーケティング

- ・国内向け国立公園情報サイト
- ・SNS／海外メディア
- ・旅行博
- ・オフィシャルパートナー等民間企業との連携
- ・日本政府観光局サイト内国立公園一括情報サイト
- ・国立公園ブランドプロミス



国立公園の優れた
自然環境

最大の魅力は
自然そのもの

保護

利用

地域の産業の活性化
地域の持続的な発展

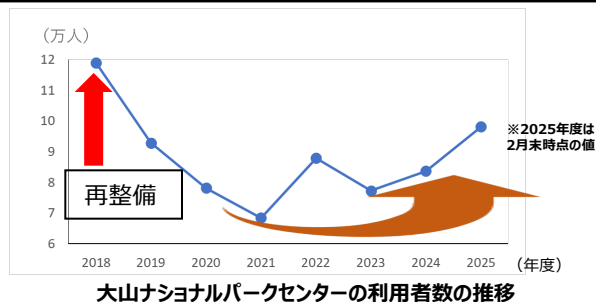
地域資源として
自然の価値向上

これまでの取組例 (1)

- 大山隠岐国立公園全域において滞在施設が充実し、利用拠点の面的魅力が向上。
- 日本人・外国人ともに利用者数はコロナ禍以前の水準に向けて着実に回復中。

① 大山蒜山地域

- 民間事業者の知見を活かしたキャンプ場再整備
- 過年度整備のビジターセンター（大山ナショナルパークセンター）と合わせて利用拠点の魅力増大



大山ナショナルパークセンターの利用者数の推移

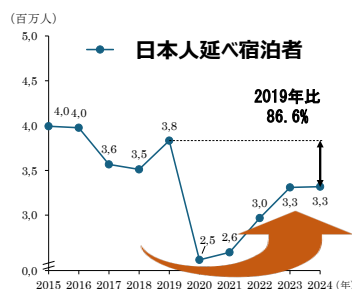
② 島根半島地域

- 施設改修による町並み改善・滞在上質化

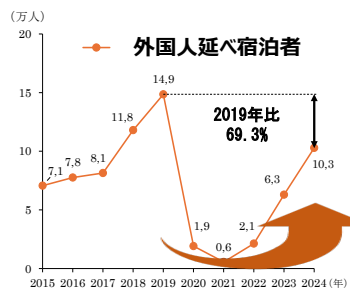


③ 三瓶山地域

- 三瓶山頂トイレの新規設置による快適な利用環境の確保



大山隠岐国立公園関係市町村における延べ宿泊者数の推移



④ 隠岐島地域

- 展望施設の整備に加え、解説の刷新・情報発信による利用環境の向上



これまでの取組例 (2)

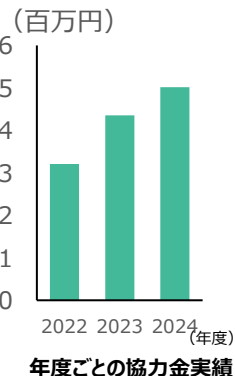
- 入山協力金や民間主体との連携により国立公園の保護と利用の好循環を創出。
- 関係者連携は3段階のレイヤーを持つ満喫プロジェクト地域協議会・部会により下支え。

①入山協力金

- 山岳環境を維持するため、2022年より大山入山協力金を本格導入
- 協力金は、自然保護活動や登山道等の補修、トイレの維持管理等の経費に充当



協力金は、随時支払い又は定額（年間）支払いが可能



②オフィシャルパートナーとの連携

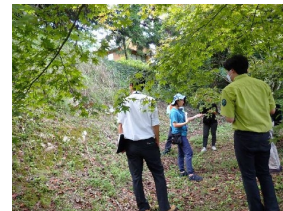
- ゴールドウインが造成・販売したツアーの情報発信等の協力
- モンベルと海士町、知夫村、西ノ島町との包括連携協定を締結
- サントリーホールディングスが参画して湿原・草原等の保全再生が進む鏡ヶ成が自然共生サイトに認定



景観シミュレーションに基づき、サントリーホールディングスが通景伐採を実施

③保護と利用の基本となる計画の検討

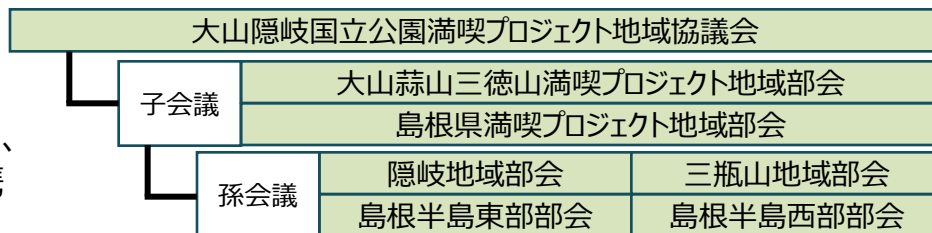
- 隠岐ジオパーク保全・活用計画の検討と国立公園の協働型管理運営の連動
- 江府町における奥大山インタープリテーション全体計画策定ワークショップの開催



隠岐ジオパーク保全活用計画策定に向けた検討会議と現地調査

④関係者連携を支える地域協議会

- 満喫プロジェクトの取組全体を統括する地域協議会と、地域別での連携を支える地域部会による関係者連携



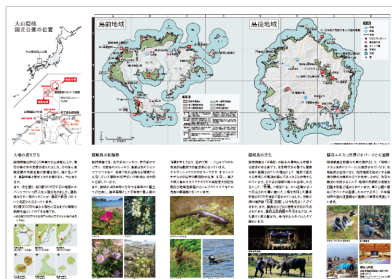
① 魅力向上先端モデル事業

- 大山蒜山地域における利用の上質化・高付加価値化に向けた基本構想を策定
- 集中的に魅力向上に取り組む利用拠点として大山寺地区を選定し、マスタープランを策定中



② プロモーション

- 統一デザインによる分かりやすい情報発信（ポケットガイド）
- ウェブサイト・公式SNSによる国内外への情報発信



③ 魅力を維持する保全・再生活動

- 鏡ヶ成、蒜山、三瓶山等における湿地や草原の保全・再生のための協働
- 大山蒜山地域におけるニホンジカ対策のための連携



④ 公園計画の点検

- 2023年に隠岐島・島根半島・三瓶山地域の公園区域及び公園計画を変更
- 公園区域の拡張や、質の高い自然体験活動を促す計画の策定を位置づけ



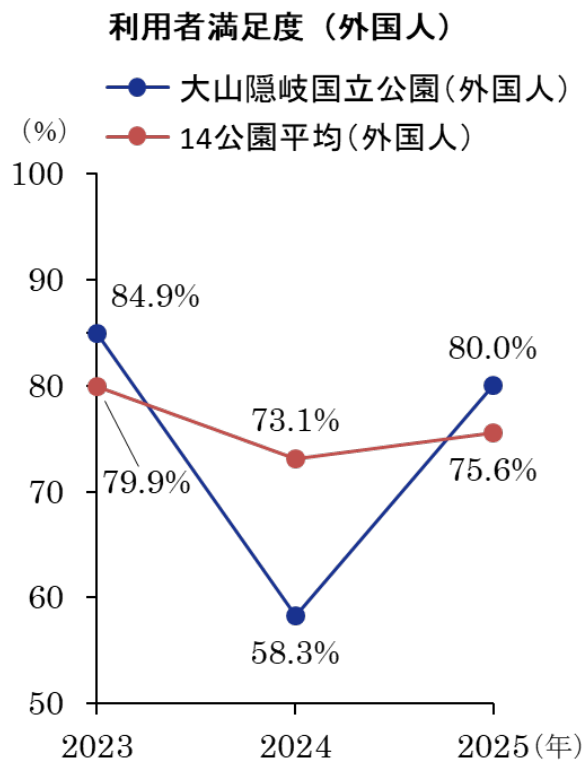
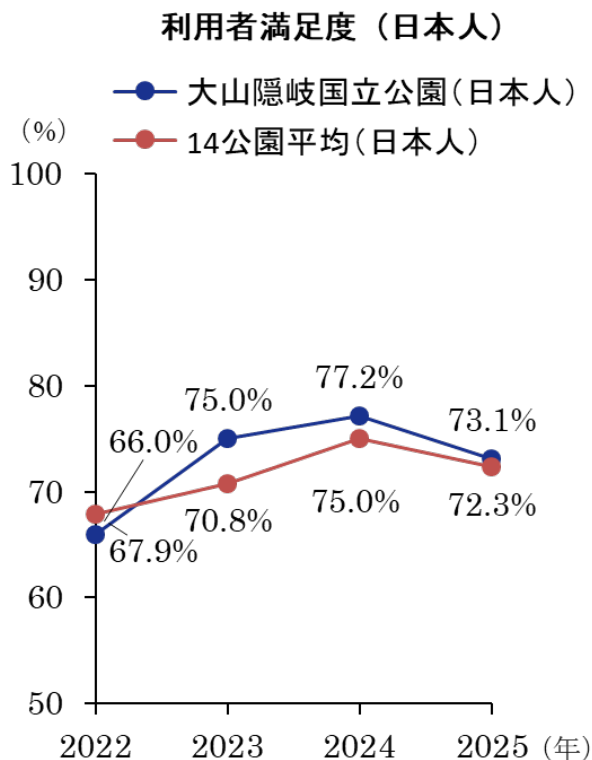
⑤ 自然共生サイトの認定

- 大山隠岐国立公園内及び周辺において複数の自然共生サイトが認定
- 多様な主体が連携して継続的な保全・再生活動の促進



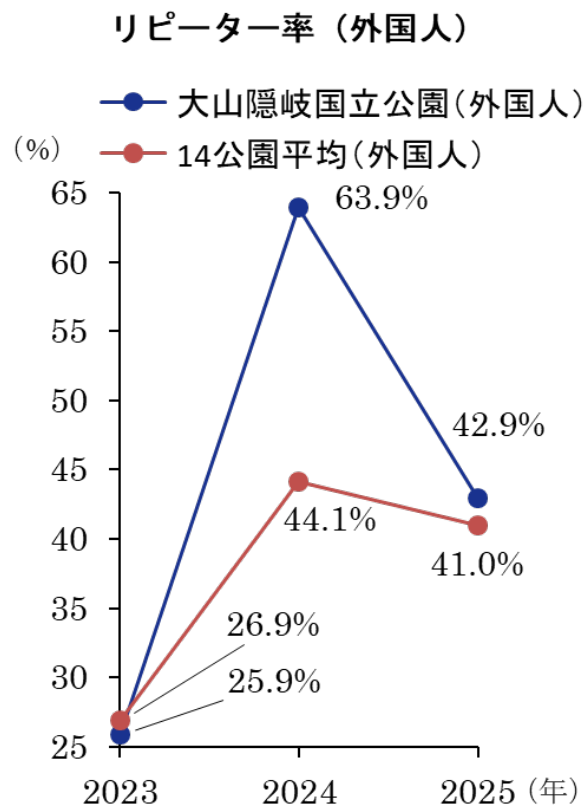
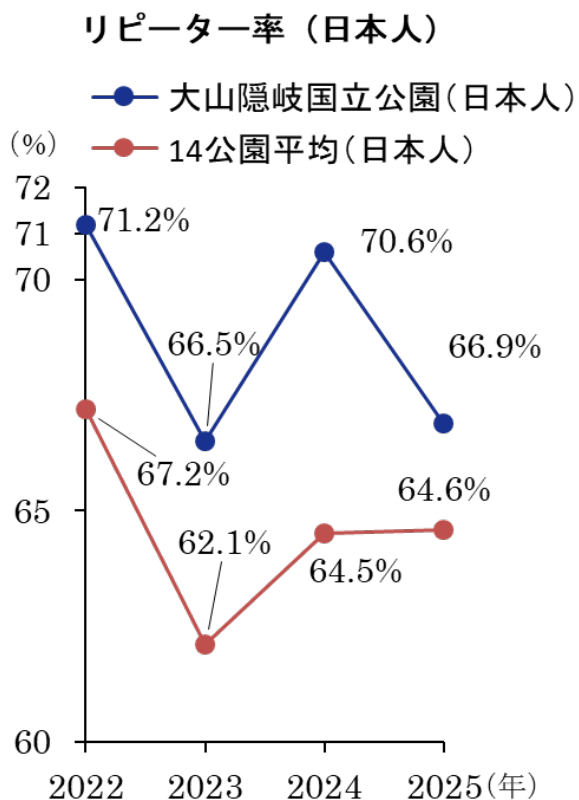
取組の進捗状況

- 利用者満足度について、日本人は66%後半から70%後半で推移した。2022年以外は全国の調査対象国立公園の平均（以下、「全体平均」）よりも、やや高かった。外国人利用者満足度は58%から85%まで幅があり、全体平均よりやや高い年と顕著に低い年があった。
- 公園訪問中の一人当たり消費額について、日本人は2025年に50,156円であり、全体平均の50,718円と同程度の水準であった。外国人の消費額については、2025年に57,440円であり、全体平均の82,166円よりも低かった。



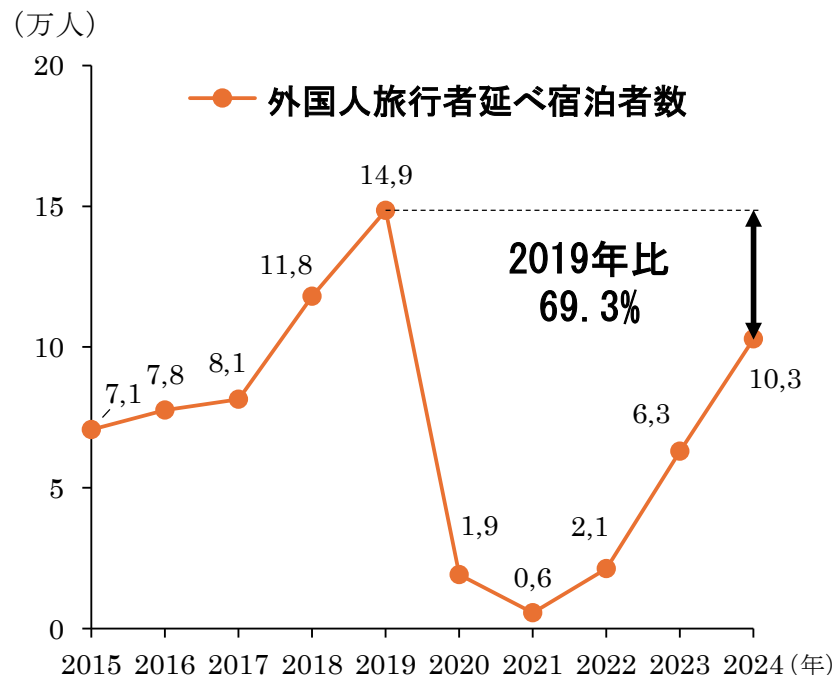
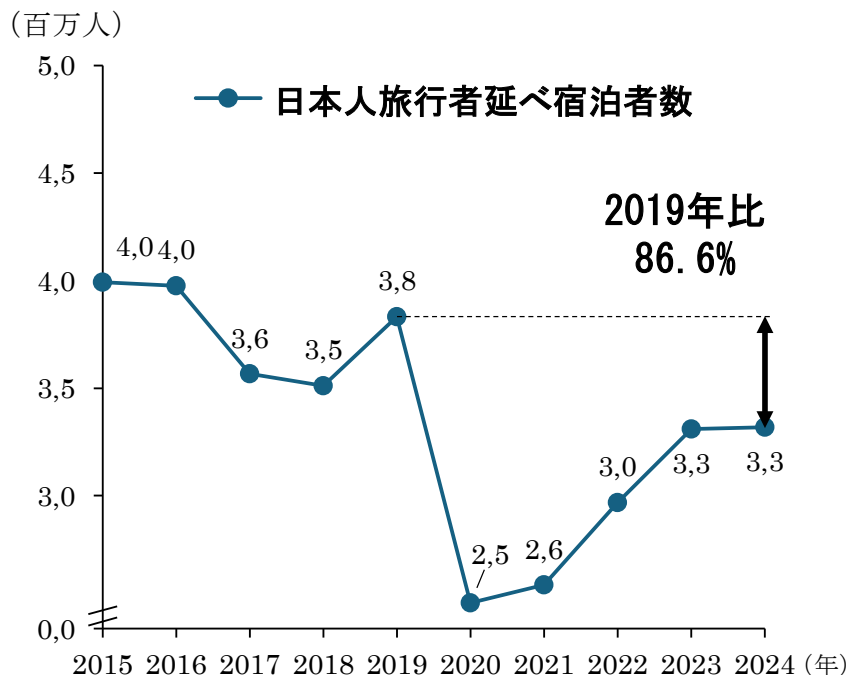
取組の進捗状況

- 平均泊数について、日本人は1.2から1.6泊だった。全体平均は1.6泊から2.2泊であり、大山隠岐国立公園は全体よりも低い値であった（期間中、調査方法に変更あり）。外国人は2.7から2.8泊であり、全体平均の2.6泊から3.0泊と同程度かやや低かった。
- リピーター率について、日本人は67%から71%程度で、全体平均よりも高い値で推移した。外国人26%から64%程度の値で推移しており、全体平均よりも高かった。



取組の進捗状況

- 大山隠岐国立公園関係市町村の延べ宿泊者数は2024年に日本人が約330万人、外国人が約10万人となった。いずれも、コロナウイルス感染症の影響以後順調に回復しているが、影響前の水準（2019年時点：それぞれ約380万人、約15万人）には達しなかった。
- クルーズ船等の利用者数（クルーズ船利用者のうち大山隠岐国立公園内に行く人の推計値）は、2024年に2,410人と推計されコロナウイルス感染症の影響以後回復傾向がみられるが、影響前の水準（2019年時点：4,445人）には達しなかった。



- これまでの取組の進捗や成果、コロナ禍後の状況、政府全体の目標も踏まえ、2030年までの目標・指標・方針を検討し、2026年以降の取組方針及び公園毎のステップアッププログラム2030を策定する。

全体の取組方針検討の流れ

2025年3月 第18回満喫P有識者会議

- 「2021年以降の取組方針」(2021-2025) 進捗総括(2025年目標に対する進捗・評価等)
- 「2026年以降の取組方針」(2026-2030) (骨子案) の検討



大山隠岐国立公園SUP2030検討の流れ

2025年3月 令和6年度大山隠岐国立公園満喫P地域協議会

- 各主体によるこれまでの取組の報告
- 次期SUP検討に向けた情報整理

2025年10月 第19回満喫P有識者会議

- 「2026年以降の取組方針」(2026-2030) (素案) の検討

2026年3月 第20回満喫P有識者会議

- 「2026年以降の取組方針」(2026-2030) (案) の検討
- 各公園のステップアッププログラム2030策定に向けた取組状況等の報告



2026年3月 令和7年度大山隠岐国立公園満喫P地域協議会

- 2025年度までの取組のまとめ
- 大山隠岐国立公園SUP2030 (素案) の検討

2026年夏ごろ 令和8年度第1回大山隠岐国立公園満喫P地域協議会

- 大山隠岐国立公園SUP2030 (案) の検討、決定

【論点1】

国立公園の魅力向上の駆動力としてのSUP

- SUP2025は、大山隠岐国立公園における取組の方向性を共有する指針として一定の役割を果たし、景観改善や施設整備、人材育成や情報発信など、具体的な事業実施の観点からも有効だった。地域関係者の意識醸成も進み、国立公園を多様な関係者で盛り上げていく機運が生まれた。
- 一方で、計画と個別事業、予算要求、評価との接続に課題も見受けられ、SUP2025が「参照される計画」に留まっている側面も見られた。今後は、取組の方向性の共有にとどまらず、関連計画や予算とのリンクを含めて事業実施における事例や経験の共有を図り、実施と改善のサイクルを回していくことが必要だと考えられる。

【論点2】

利用・保全両面から取組をけん引する主体としての地域協議会

- 地域協議会は、行政・事業者・関係機関がお互いの顔が見える関係を築き、情報共有やネットワーク形成を進める場として有効に機能した。
- 一方で、報告・共有が中心となり、積極的な意見交換や具体的な行動につながる議論が限定的であった点が課題である。
- 今後は、満喫プロジェクトの事業内容の共有にとどまらず、大山隠岐国立公園の魅力向上の取組を議論し、前に進めていくための主体としての協議会に発展させていく必要がある。その際、協議会としての事業を実施することも有効だと考えられる。同時に、協議会構成員に限らず、関係する機関との連携をより一層図る必要がある。

【論点3】

実施、評価、改善のサイクル

- 今後の目標・指標設定においては、来訪者数など量的指標だけでなく、滞在の質や地域への波及効果を捉える視点が重要である。また、利用者の視点にとどまらず、国立公園の魅力向上のための新しい観点での指標設定も検討する必要がある。
- 大山隠岐国立公園は地域特性の幅が広く、一律の指標では実態を十分に反映できないため、エリア特性に応じた指標設定も有効と考えられる。観光動態や利用者の客層をとらえ、ターゲットを的確に設定する必要がある。

- 2月28日開催の大山隠岐国立公園90周年記念フォーラム第二部において、満喫プロジェクト協議会等関係者意見交換会を実施。意見概要は以下の通り。

- 満喫プロジェクト地域協議会開催の目的をはっきりさせるとともに、具体的な動きを生み出さなければ協議会の意義が理解されづらく、構成員の出席につながらない。
- 関係自治体の市町村長レベルで議論を行い、横の交流と新しい動きを生み出せないか。
- ハードの整備は進んできたが、ソフトの部分でより一層の努力が必要ではないか。地域関係者が国立公園についてストーリーを語れるようにすべではないか。
- 周辺自治体も含めて国立公園を盛り上げていく動きに積極的に関わるよう、働きかけていくべきではないか。
- 地域関係者が関係省庁の支援メニュー等情報を把握できていないものがあつた。関係者への情報共有をより一層図る必要がある。



- 施設整備・景観改善等を含む受け入れ環境の向上、地域における連携体制の構築、国内外へのプロモーション、コンテンツ造成等の継続・強化
- 個々の地域の魅力向上にとどまらず、公園外を含めて地域を周遊して満足度の高い体験が得られ、滞在時間・消費額を増加させるための施策について、協議会の新規の取組として注力（ガイド育成等）
- 大山隠岐山地域における先端モデル事業の取組と連動させ、周囲への波及効果を生み出す取組
- 利用の促進だけでなく、自然環境の保全・再生とリンクさせた取組への注力
- ジオパークや日本遺産などの自然・文化を活用した取組との連携強化
- 関係省庁の支援事業を含め、活用しうるツールに関する情報を適時共有するネットワーク化
- 民間事業者の積極的な参画を促す工夫



- 国立公園満喫プロジェクト全体の取組方針を踏まえるとともに、大山隠岐国立公園SUP2025の振り返り結果を反映し、SUP2030を検討する。

全体の取組方針（素案）

基本的な方針

2016年から開始した国立公園満喫プロジェクトの総仕上げに向け、取組を加速化

- 1 国立公園ならではの魅力的な滞在体験の提供**

 - 感動体験の提供を柱とした滞在型・高付加価値観光を推進する。関連予算や民間提案を踏まえた制度の柔軟な運用により、民間投資を促進し、魅力的な滞在環境の実現を図る。
 - 多言語対応や二次交通等の満足度が低い事項の改善等について地域関係者とも連携して取組を進める。
 - 地域が主体となった取組を活性化させるため、民間の実施主体・関係地方公共団体への協力・支援を実施。
- 2 地域・来訪者双方にとっての国立公園のブランド力の向上及び国内外へのプロモーションの強化**

 - 国内外からデスティネーションとして選ばれるため、日本の国立公園のブランド力向上を図る。
 - 多様な主体と連携・協力・役割分担の上、戦略的かつ効果的にプロモーションを行う。
- 3 国立公園の保護と利用の好循環の実現による地域への貢献**

 - 保護への再投資に繋がる利用者負担の取組を促進、自然資源劣化への対策や環境負荷低減を図る。
 - 利用拠点・施設、活動による環境負荷の低減を図り、地域の持続可能性を高める。
 - 国立公園内の長期滞在を促し、地域資源に対する支出を増やすことで、地域内経済循環に貢献。
- 4 横断的事項（基本的視点）**

 - 最大の魅力は自然そのもの／人の暮らし・文化・歴史を有する自然との共生の姿「体積」で考える／幅広い利用者層に対応／広域的な視点／サステナビリティ

大山隠岐国立公園SUP2025振り返り結果

【論点1】
国立公園の魅力向上の駆動力としてのSUP

【論点2】
利用・保全両面から取組をけん引する主体としての地域協議会

【論点3】
実施、評価、改善のサイクル

取組加速化のための枠組み

- 全ての国立公園で統一した意識のもと、本省において進捗把握を行いながら、プロジェクトを推進
- 有識者会議による助言体制を整備し、全国と地域の連携を強化
- 地域協議会等を協創の場として機能が発揮されるよう、推進体制の見直し・改善を図る
- 地域コーディネーターの育成や、地域主体の事業への重点支援を検討
- 法制度と補助制度の連携を強化し、一貫した環境整備・利用促進を推進
- 各公園のベストプラクティスを取りまとめ、他公園で効果的・効率的な取組を展開
- 国定公園・ロングトレイルについても、ポテンシャルや受入体制を踏まえ、基盤整備や情報発信を支援

目標・指標

アウトカム指標	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な方針に掲げる各項目の達成に向け、アウトカム指標として「量」と「質」の双方の指標を設定 目標の達成状況や、今後策定予定の政府全体目標等を踏まえ、必要に応じて見直しを検討する。
アウトプット指標	<ul style="list-style-type: none"> 全国の国立公園における活動状況を把握するため、アウトプット指標を設定 活動内容の見直しや充実化を図る中で、必要に応じて各種指標の見直しを検討する。
地域別の目標	<ul style="list-style-type: none"> 取組を行う国立公園・地域ごとに個別の目標・指標を設定 (国立公園ごとのアクセス条件、利用施設、自然等のキャパシティ、利用のビジョン等を考慮した目標・指標)

- SUPの策定の目的を明確にして関係者が共有できるよう、「SUP2030策定の目的と位置づけ」に関する項目を追加する。
- 1.4「新型コロナウイルス感染症による影響」の記載を削除する一方、地域別の大山隠岐国立公園の利用者像に関する記載を増やす。

SUP2025の目次

はじめに

- 1 現状分析
 - 1.1 大山隠岐国立公園の概要
 - 1.2 大山隠岐国立公園を訪れる利用者
 - (1) 全体の利用者数とアクセスの概況
 - (2) 日本人利用者の概況
 - (3) 外国人利用者の概況
 - 1.3 ステップアッププログラム2020の達成状況及び本プログラムへの継続性
 - 1.4 新型コロナウイルス感染症による影響

SUP2030の目次案

はじめに

SUP2030策定の目的と位置づけ

- 1 現状分析
 - 1.1 大山隠岐国立公園の概要
 - 1.2 大山隠岐国立公園を訪れる利用者
 - (1) 全体の利用者数とアクセスの概況
 - (2) 日本人利用者の概況
 - (3) 外国人利用者の概況
 - 1.3 ステップアッププログラム2030の達成状況及び本プログラムへの継続性
 - ~~1.4 新型コロナウイルス感染症による影響~~

地域別の利用者の概況を追記する

- 大山隠岐国立公園のブランディング・テーマについては変更しないことを想定。
- 目標については基本的な方向性は変更しないが、地域の自然や文化の維持・再生や地域社会の持続可能性への貢献を明記。
- 指標については、全体の取組方針を踏まえて大山隠岐国立公園で反映する内容を検討。

SUP2025の目次

- 2 目標
 - 2. 1 利用の推進を図る上でのテーマ
(ブランディング・テーマ)
 - 2. 2 ターゲットとする利用者層
 - 2. 3 目標
 - 2. 4 取組の方針
 - 2. 5 指標

SUP2030の目次案

- 2 目標
 - 2. 1 利用の推進を図る上でのテーマ
(ブランディング・テーマ)
 - 2. 2 ターゲットとする利用者層 —— 更新
 - 2. 3 目標 —— 更新
 - 2. 4 取組の方針 —— 更新
 - 2. 5 指標 —— 更新

【検討しうる指標】

訪日外国人の指標として、「推奨意向」、「来訪前の国立公園の認知割合」、「国立公園を訪れた訪日外国人の平均消費額」、日本人の指標として「推奨意向」、「来訪前の国立公園の認知割合」があげられる。

- 優先的な取組について、これまでの取組や今後の取組の方向性を踏まえ、更新する。
- 具体的な記載については、構成員に意見照会を行い引き続き内容を検討する。

更新のポイント（例）

- 先端モデル事業（宿泊施設を中心とした利用拠点の魅力向上）による保護と利用の好循環創出・広域連携
- ジオパーク・日本遺産等との連携強化
- 自然体験活動計画の作成等を通じた体験プログラムの充実化や、ガイド育成等による利用の質の向上
- 入山協力金制度の発展
- 保全（外来種対策・普及啓発・シカ対策等）の取組拡充
- 自然共生サイトや自然再生事業との連携
- 老朽化した施設の計画的な再整備
- 国立公園の保護・利用に係る計画の改定

SUP2025の目次

3 優先的な取組

3. 1 国立公園全域及び複数の地域をまたぐ取組
 - (1) 国立公園全域における優先的な取組
 - (2) 島根県内の4地域における優先的な取組

3. 2 大山蒜山三徳山地域で実施する取組
3. 3 隠岐地域で実施する取組
3. 4 島根半島東部地域で実施する取組
3. 5 島根半島西部地域で実施する取組
3. 6 三瓶山地域で実施する取組

- (1) 地域の概要
- (2) 重点地区及び優先的な取組
- (3) 地域全体又は重点地区以外での優先的な取組

SUP2030の目次案

3 優先的な取組

構造は大きく変えず
内容を更新

3. 1 国立公園全域及び複数の地域をまたぐ取組
 - (1) 国立公園全域における優先的な取組
 - (2) 島根県内の4地域における優先的な取組

3. 2 大山蒜山三徳山地域で実施する取組
3. 3 隠岐地域で実施する取組
3. 4 島根半島東部地域で実施する取組
3. 5 島根半島西部地域で実施する取組
3. 6 三瓶山地域で実施する取組

- (1) 地域の概要
- (2) 重点地区及び優先的な取組
- (3) 地域全体又は重点地区以外での優先的な取組

- 4.1には各協議会の体制と役割を明確にする。協議会としての事業を実施していくための体制（ワーキンググループの設定等）について位置付ける。
- 満喫プロジェクトに参画・賛同する機関・団体についても、参画の意義を整理する。
- 実施・検討する取組の一覧は引き続き毎年整理するが、SUP本体の別紙ではなく、年次計画としての位置づけとする。

SUP2025の目次

- 4 進捗評価及びプログラムの改訂
 - 4. 1 進捗評価
 - 4. 2 プログラムの改訂
- 別紙 1 実施・検討する取組の一覧
- 別紙 2 大山隠岐国立公園満喫プロジェクト
地域協議会設置要綱
- 別紙 3 大山隠岐国立公園の関係市町村一覧
- 別紙 4 大山隠岐国立公園満喫プロジェクトに
参画・賛同する機関・団体の一覧

SUP2030の目次案

- 4 進捗評価及びプログラムの改訂
 - 4. 1 各協議会の体制とその役割
 - 4. 2 進捗評価
 - 4. 3 プログラムの改訂
- 別紙 1 大山隠岐国立公園満喫プロジェクト
地域協議会設置要綱
- 別紙 2 大山隠岐国立公園の関係市町村一覧
- 別紙 3 大山隠岐国立公園満喫プロジェクトに
参画・賛同する機関・団体の一覧